

## ■部局横断型「死生学・応用倫理教育プログラム」2026年度開講科目

(授業形態や教室などは変更されることがあるので、必ず開講部局でご確認ください。)

## ○必修科目

1文学部 04260031

堀江宗正ほか「死生学概論」(死生学の射程) 2単位 A1+A2 金3

死生学に関連する研究をおこなっている文学部・人文社会系研究科の教員を中心に、死生学の主なトピックを取り上げて、現在の研究状況を概説する。それぞれ、人間の死と、死にゆく過程での生をめぐる諸問題、またそれらに関する思想や実践を取り上げる。死生に関する多様なアプローチを学び、学際的思考の基礎を養う。なお、本講義は「応用倫理概論」と共に、部局横断型プログラム「死生学・応用倫理教育プログラム」の基幹講義である。

2文学部04260070

鈴木晃仁「応用倫理概論」(応用倫理入門) 2単位 S1+S2 金3

応用倫理という広い領域に関して、合計で10人前後の教員が、死、生、性、病、臨床、環境、ケア、サステイナビリティなどについて講義をする。

## ○選択必修科目

3文学部 04260061

鈴木晃仁「死生学演習 I」(患者の歴史と倫理 I) 2単位 S1+S2 金3

医学・医療の歴史を構成する疾病・患者・医療の三つの要因から、この授業では患者を選び、患者の歴史について大学院クラスのセミナーを行う。The history of medicine has three factors: disease, patient, and medical practitioners. This seminar picks up on the topic of patients, asks you to read both relatively advanced and basic papers, and encourages you to join the English discussion.

4文学部04260062

富澤かな「死生学演習 II」(共存の論理と食・生命) 2単位 S1+S2 水5

何を食べ、どう生活して死んでいくのか、そのあり方は多様な要因の上に展開しており、そこにはさまざまな問題が生じてきました。本演習では、東西の食と死生のあり方に関する文献の講読から、異なる存在が共存することの困難と可能性を考えます。最初の数回については以下の文献を考えていますが、履修者の人数と関心により考慮、調整します。その後履修者の選定した文献を購読したのち、期末レポートの計画を報告、討議します。

5文学部04260081

会田薫子「応用倫理演習 I」(質的研究法入門) 2単位 S1+S2 火5

社会における事象の捉え方には大別すると量的研究法と質的研究法があり、医学、保健学、看護学、社会学、心理学、教育学等の分野においては特に数量的なアプローチが主流であったが、近年、個人およびグループ面接や観察によってデータを得る質的研究法の有用性が広く知られるようになり、この方法で研究に取り組もうとする研究者も増えてきた。しかし、手法・手続きが整えられ評価法も確立された量的研究法とは異なって、質的研究法を学ぶことは容易ではないと言われている。本科目では、質的研究法の入門編として、質的研究法の世界を概観し、質的研究法を用いた原著論文の詳細なクリティークを通して、質的研究法の特徴を理解し、研究法と論文作成法を具体的に把握し、また、事象の捉え方に関して視野を拡大することを目標とする。

#### 6文学部 04260082

鈴木晃仁「応用倫理演習Ⅱ」（患者の歴史と倫理Ⅰ） 2単位 A1+A2 火4

患者の歴史と倫理に関する論文や一次資料を読んで議論する

医学・医療の歴史を構成する疾病・患者・医療の三つの要因から、この授業では患者を選び、患者の歴史について大学院クラスのセミナーを行う。

The history of medicine has three factors: disease, patient, and medical practitioners. This seminar picks up on the topic of patients, asks you to read both relatively advanced and basic papers, and encourages you to join the English discussion.

#### 7文学部 04260083

井口高志「応用倫理演習Ⅲ」（ケアと生の社会学（1）） 2単位 S1+S2 木2

人間の生存、生命、人生を指す生や、人の生を支えるケアという現象のリアリティを捉えるための社会学理論と方法について文献を講読しながら考えていきます。S Semesterでは、主に社会学理論とケアや生のフィールドの経験的研究をつないでいるモノグラフを中心に読んでいきます。経験的研究に社会学理論をどう用いるかという観点で理論について考えることとなります。また、講読と並行して各自の研究計画作成・発表等を通じ、問題意識から研究へとつなげていくことも試みます。タイトルにあるケアや生は広い概念ですので、さまざまな関心を持つ人や他ディシプリンを学ぶ人の参加も歓迎します。

#### 8文学部04260084

冨澤かな「応用倫理演習Ⅳ」（共有の論理とオリエンタリズム） 2単位 A1+A2 水5

さまざまな「分断」が問題となっている今、異なる者が共存する中で、どのように共通の場や語彙をつくりうるのかは大きな課題です。本演習では、「多様性の中の統一」を語る「世界最大の民主主義国」、インドを起点に、「共有」に関わる文献の購読をします。最初の数回については以下の文献を考えていますが、履修者の人数と関心により考慮、調整します。その後履修者の選定した文献を購読したのち、期末レポートの計画を報告、討議します。

## 9文学部04260085

井口高志「応用倫理演習V」（ケアと生の社会学（2）） 2単位 A1+A2 木2

人間の生存、生命、人生を指す生や、人の生を支えるケアという現象のリアリティを捉えるための社会学理論と方法について文献を講読しながら考えていきます。A Semesterでは、S Semester同様に理論と経験的研究の関係について考えますが、特に、情動、感情、愛情、親密性などの概念・現象に関わる研究書を中心に講読を行います。また、講読と並行して各自の研究計画作成・発表等を通じ、問題意識から研究へとつなげていくことも試みます。タイトルにあるケアや生は広い概念ですので、さまざまな関心を持つ人や他ディシプリンを学ぶ人の参加も歓迎します。

### ○選択科目

## 10文学部 04260041

会田薫子「死生学特殊講義 I」（臨床死生学・倫理学の諸問題XI） 2単位 S1+S2 水6

臨床死生学および臨床倫理学の諸課題に関して、実践家や研究者の発表とそれに基づく討議を行う。本科目は「臨床死生学・倫理学研究会」として一般に公開しており、医療・介護関係者が全国から多数参加している。

授業運営についてメールで知らせるので、履修者・聴講者はメール・アドレスを予め担当教員に知らせること。

本研究会では、医療・介護現場の実務家や現場に臨む研究者の講演および思想系の研究者の講演を軸に、現代社会における生と死をめぐる諸課題について理解し考察を深める。また、当該学問領域の理論的な進展も扱う。

なお、授業の運びに関してしっかり理解してから研究会に参加する必要があるため、履修希望者は初回のオリエンテーションに必ず参加を要する。やむを得ない理由によってオリエンテーションに参加できない場合は、担当教員にメールにて問い合わせること。

2026年度S学期の予定は以下のとおり。

4月15日 オリエンテーション

4月22日 「鎮静の倫理」

有馬 斉 先生 （横浜市立大学国際教養学部 大学院都市社会文化研究科 教授）

5月13日 フォローアップ授業

5月20日 「看取りの現場から—多職種オンラインカンファレンス『心理から考える症例検討会』」

片山 和久 先生ら （小松島天満クリニック 院長）

※症例検討会をしていただくので、その他数名の先生方がご登壇いたします。

5月27日 フォローアップ授業

6月3日 「『有明月の月下美人』を通じて伝えなかったこと～高齢者救急医療とACPの実態～」

- 石井 隆之 先生 （高知医療センター 総合診療科 部長（兼）科長）  
6月17日 フォローアップ授業  
6月24日 「ケアする人のケアする—自分を大事にして元気になる—」  
岡山 ミサ子 先生 （オフィスJOC—Japan Okan Consultant—代表 心といのちのケア専  
門家（オカン））  
7月1日 フォローアップ授業  
7月8日 「医療における子どもの権利擁護—患者が‘子ども’であるということ—」  
高橋 衣 先生 （東京慈恵会医科大学地域連携看護学実践研究センター センター長 大学  
院医学研究科看護学 専攻母子健康看護学分野 特任教授）  
7月15日 フォローアップ授業

#### 11文学部04260042

会田薫子「死生学特殊講義 II」（臨床死生学・倫理学の諸問題XII） 2単位 A1+A2 水 6

S学期に続き、臨床死生学および臨床倫理学の諸課題に関して、実践家や研究者の発表とそれに基づく対話を行う。本科目は「臨床死生学・倫理学研究会」（オンライン）として一般に公開しており、医療・介護関係者が全国から多数参加している。

授業運営についてメールで知らせるので、履修生・聴講生はメールアドレスを予め担当教員に知らせること。

本研究会では、医療・介護現場の実務家や現場に臨む研究者の講演および思想系の研究者の講演を軸に、現代社会における生と死をめぐる諸課題について理解し考察を深める。また、当該学問領域の理論的な進展も扱う。

なお、授業の運びに関してしっかり理解してから研究会に参加することが求められるので、履修希望者は初回のオリエンテーションに参加を要する。やむを得ない理由によってオリエンテーションに参加できない場合は、担当教員にメールにて問い合わせること。

2026年度A学期の予定は以下のとおり。

- 10月 7日 オリエンテーション  
10月14日 「コワガラナクテモイイトイイ」  
林章敏先生 （日野原記念 ピースハウス病院 副院長）  
10月21日 フォローアップ授業  
11月4日 「心不全の緩和ケア — 病期によって変容する倫理的課題」  
大石醒悟先生 （真星病院 副院長/循環器内科専門医・総合内科専門医）  
11月11日 フォローアップ授業  
11月18日 「看護師が日常ケアとして実践するACP」  
堀川由加里先生 （東京都健康長寿医療センター 慢性心不全看護認定看護師）  
12月2日 フォローアップ授業  
12月9日 「医療・ケアの現場で人が人として尊重されるためのとりくみを振り返って— 部門、施設、地域を越えて」

江口恵子先生（社会医療法人博愛会 顧問）

12月16日 フォローアップ授業

12月23日 「いのちの終わりをともに歩むということ — 患者さんが遺してくれた言葉と時間」

木村祐輔先生（岩手医科大学 緩和医療学科 教授 / 緩和ケアセンター長）

1月6日 フォローアップ授業

### 12文学部 04260043

会田薫子「死生学特殊講義 III」（臨床死生学特論） 2 単位 A1+A2 火 5

臨床死生学と生命倫理・臨床倫理が交差する領域における諸課題の理解と思考力を養うことをめざす。

予定トピック：臨床死生学の射程、生命倫理と医療倫理と臨床倫理の異同、医療とケアの多職種協働、意思決定支援とカンファレンスの方法、臨床死生学の諸課題をひとりひとりの患者/利用者の視点から臨床倫理的に検討（End-of-Life Careの諸問題、緩和ケアとその心理・社会・スピリチュアル面の諸問題、延命医療の差し控えおよび終了に関わる問題、「尊厳死」・安楽死・医師による自殺ほう助、脳死、臓器移植など）

### 13文学部 04260044

早川正祐「死生学特殊講義 IV」（受容性から考える倫理的な生の諸相：ケアの倫理を起点として） 2 単位 A2集中

これまでの英語圏の倫理学においては、倫理的な主体ないし人格は、自己の振る舞いを合理的な仕方でもコントロールする存在だとしばしば見なされてきた。例えば計画・方針・約束・契約等の事前のコミットメントに基づく合理的制御／統御という観点から、「自由」や「責任」の問題が論じられることが多かった。

しかしこのような考え方に対して、ケアの倫理の代表的論者であるネル・ノディングズらは、「合理的なコントロールを（部分的にであれ）手放すことこそが、他者や世界への倫理的な関わりを可能にする」と主張してきた。自己の外部に対する合理的なコントロールが行き過ぎたものになると、他者を意のままにコントロールしようとする「操作的なあり方」もまた強まってしまう。その結果、私たちは他者を尊重することも、他者に対して責任のある態度で応じることも難しくなる。ノディングズ、さらに徳倫理学者としても著名なマイケル・スロートは、そのように考えた。

彼女／彼らは、この「操作的なあり方」を和らげるものとして、自己の外部から訪れるものを感じ受ける「受容的なあり方」に着目した。そして、受容的なあり方が、例えば他者の声を聞くということや、他者と共に感じるということ（feeling-with/empathy）を通して実現されると考えた。このような受容性を重視する方向性は、徳倫理学の代表的論者であるクリスティーン・スワントンの最近の著作でも顕著になってきている。

そこで本講義では、彼女／彼らの議論を参照しつつ、「受容性」という観点から、私たちの倫理的な生を豊かに捉え直すことを試みる。まずはノディングズのケア倫理において受容性がどのように特徴づけられているのかを見る。次に、成熟した共感による受容的なあり方を徳として捉えるスロート

の見解や、愛のある態度を徳として捉え、それを受容性から特徴づけるスワントンの見解を検討していく。さらに私自身の議論の展開として、「受容性」というアイデアを、臨床におけるケア実践を参照しつつ、他者のタイミングやペースを鋭敏に感受するという観点から一層掘り下げることになる。ただしその際、それほど簡単に受容的になれない私たちの弱さもきちんと考慮に入れたい。

#### 14文学部 04260045

乗立雄輝「死生学特殊講義 V」 (死生をめぐる諸問題についての偶然と確率の視点からの考察)  
2 単位 A1+A2 水4

1990年代から2000年代にかけて英語圏で新たに登場してきた「関係的な自律論」(relational autonomy) について批判的に検討し、その臨床的応用も試みる。

従来の個人主義的な自律論は、個人の独立性と他者からの不干渉を基調とする自己決定を核としてきた。それに対して関係的な自律論は、人間の相互依存性と傷つきやすさに着目し、一定の依存関係や社会的環境の中で育まれるものとして自律を捉える。講義では、関係的自律論において、従来の自律論の中心的諸概念、すなわち、自己決定・反省性・合理性・自己理解・統合性等がどう捉え直されているのか、またどう捉え直されるべきなのかを考察する。その上で、医療従事者・患者・患者家族、それを取り巻く社会的／文化的環境という要素を考慮しつつ、関係的な自律の概念を、臨床における共同的な意思決定プロセス (shared decision-making process) に相応しいものへと発展させる。

#### 15文学部 04260046

古荘真敬「死生学特殊講義VI」 (死生をめぐる実存哲学の諸問題) 2 単位 S1+S2 金5

われわれが各自のかけがいのない「この身体」のもとに息づき、自身にとって一回的な生を他者たちと共に生き、年老いて、死んでいく、その多様な実存の様相と意味について、とりわけ「可能性」「現実性」「偶然性」といった様相概念に注目しながら、西洋哲学史上のさまざまなテキストを解釈し、考察を展開していく。扱われるテキストは、必ずしもいわゆる「実存哲学」に分類されるものとはかぎらないが、われわれの実存理解の精緻化をめざした解釈を試みていきたい。

#### 16文学部04260047

堀江宗正「死生学特殊講義 VII」 (死生学入門) 2 単位 A1+A2 月3

死生学には臨床系の死生学と人文系の死生学がある。この講義は、人文系の死生学の初歩を学び、理論や実際についての知識を深めることを目指す。

#### 17文学部 04260048

山田慎也「死生学特殊講義 VIII」 (葬送儀礼の変容と死生観) 2 単位 A1+A2 水2

死に際して行われる葬送儀礼は、人々の死生観とも密接に関連しており、死生学においても重要

な課題である。個人化の進む現代においては、葬送儀礼は大きく変容しており、現代の死を考える上でもその動態を含めて総合的に捉えていく必要がある。この講義では、おもに民俗学的な視点から、近現代の日本の葬送儀礼について取り上げていきたい。その際には必要に応じて近代以前の歴史的変遷や、また地域的な多様性についても含めて捉えていくことで、日本における死の文化について検討していきたい。

#### 18文学部 04260049

冨澤かな「死生学特殊講義IX」（インドから考える共存と生命） 2単位 S1+S2 月5

本講義では近現代のインドを起点に、食や死生観に関する文化の多様性とその軋轢と共存と調整の在り方について考えます。何を食べ、どう生活し、死んでいくのか、そのあり方は多様な要因の上に展開しています。そこにはさまざまな問題が生じてきました。さらに現在、世界規模で持続性が問われる時代に、他者と共存しながら何をどう選択するのかを考えたいと思います。

#### 19文学部04260050

澤井 敦「死生学特殊講義X」（死と不安の社会学） 2単位 A1+A2 月2

普段あまり考えることはなくても、何かのきっかけから、自分はなぜ生きているのだろうと「生きる意味」を問う瞬間が誰の人生にもあるだろう。そうした問いについて考える時、「生」には「死」という終わりがあるという事実が否応なく私たちに迫ってくる。

とはいえこの死、とりわけ自分の死について、普段あまり考えることはないかもしれない。ただ、あまり考えることがなくても、死という終焉が必ず訪れるという事実は、漠然とした不安感となって、私たちの生をなかば無意識のうちに覆うものとなる。

哲学・心理学・精神医学などにおいて、以上のような事態はさまざまなかたちで考察されてきた。ただ、この授業でとりわけ焦点を当てたいのは、端的に言えば、死や不安の社会的様相である。

死という不可解かつ不可知の現象は社会的にどのように処理されてきたのか・いるのか、また死を基底とする不安感は社会や文化の変動に応じてどのような様相を呈することになるのか。このような問いについて社会理論の観点から考察することがこの授業の目的である。

#### 20文学部04250051

轟 孝夫「応用倫理特殊講義I」（技術時代の倫理——ハイデガー哲学の視点から——） 2単位 A1+A2 月4

本講義では「存在への問い」で知られるドイツの哲学者マルティン・ハイデガーによる戦後の技術論を手引きとして、現代技術の本質とは何か、また現代技術によって規定された社会において可能な「倫理」とはどのようなものかについて考察する。

講義ではまず、ハイデガーの「存在への問い」の基本的内容を『存在と時間』から後期に至るまでの時代的展開に即して概観する。その際、彼の哲学的思索がもつ政治性にとくに注目する。

こうした「存在への問い」の概要の把握に基づいて、講義ではハイデガーが戦後に発表した論文「技術への問い」の講読を行い、彼の技術論の倫理的・政治的含意を明らかにする。

以上のような内容を通して、本講義では現代の「応用倫理学」の本質と限界を浮き彫りにするとともに、今日のわれわれが技術に対していかなる態度を取るべきなのかを考察する。

#### 21文学部04260072

吉永明弘「応用倫理特殊講義II」（都市の環境倫理（Urban Environmental Ethics）） 2単位  
S1+S2 月4

環境倫理学の基本的な枠組みを知るとともに、「都市の環境倫理」の内容を理解することによって、環境問題と都市問題について倫理学の視点から考えることができるようになる。

#### 22文学部04260073

福永真弓「応用倫理特殊講義III」（現代における自然らしさとは何か、人間的であることとは何かを食と場所に関する議論を通じて考察する。） 2単位 A1+A2 火4

食とは、自然が生み出したものを人間の身体に取り入れる行為であり、身体という場は人と自然が関わる場でもある。また食は、食料を得て加工し食卓に並べるまでの過程も、食べるという行為自体も、きわめて文化的かつ社会的行為である。しかも、グローバルに広がる食の生産・消費・廃棄のシステムに支えられた現代の食において、わたしたちは見知らぬ他者が生きる場と生産・消費・廃棄のシステムを介してつながっている。本講義では、大気海洋システムまでも大きく人間活動に影響を受け、人為起源の生物系群に地球が覆われた人新世時代において、食システムがいかなる変容を求められ、実際に変容しつつあるかを追いかける。そして、よい食とは何かについて、おいしい、健康である、倫理的である、持続可能である、公正である、真正である、など「よさ」を表現する概念と実践をたどりながら考える。それは同時にわたしたちが生きる場所とは何かについて考えることでもある。本講義は二つの目標を設定する。一つは、現在の食システムを理解した上で、よい食とは何かを評価する軸をみずから見だし、実践する方法を探求することができることである。もう一つは、人新世時代において自然らしさ、人間的であるとは何かについて深く考察し、具体的な社会のデザインについて想像する力を得ることである。

#### 23文学部04260074

村上靖彦「応用倫理特殊講義IV」（現象学的質的研究入門） 2単位 S 2 集中

現象学的質的研究の方法について学ぶ。

#### 24文学部04250073

北條勝貴「応用倫理特殊講義V」（環境文化史から実践するパブリック・ヒストリー） 2  
単位 S1+S2 月5

近年、歴史学の各分野で、歴史研究・歴史叙述を専門家の独占から解放し、一般社会のひとびととともに考えてゆくパブリック・ヒストリーが盛んになっている。そこでは、史料を讀解し過去の事実を云々するだけでなく、わたしたちが直面しているさまざまな現代的問題について、歴史的な知見を援用し解決する方法が模索されている。例えば、災害史の知識は、防災・減災のリスク管理に役立ってくれるのか。伝統や文化財の保全と環境の改変・開発とは、どのように折り合いをつけてゆくべきなのか…。しかし、それらをめぐる合意形成の現場では、負の歴史をめぐる地域住民の悪感情の調整、"Shared Authority"をめぐる葛藤、ポピュリズムやリヴィジニズムとの対峙など、さまざまな固有のアポリアが横たわっており、容易な解決を許さない。本授業では、担当教員の北條が関わってきたフィールドの諸問題を中心に、教育／研究／社会の交錯するさまざまな事例を検討しつつ、社会生活における〈歴史の応用〉、パブリック・ヒストリーの実践について考えてゆきたい。なお、今年度は「自校史」や大学アーカイブズを意識したトピックを扱う。

また受講生は、以下の到達目標を意識しながら授業に参加すること。

- 1) 高校までの教科書で学んだ歴史が、唯一普遍ではなく仮説に過ぎないことを自覚できるようにする。
- 2) 一国史・人間の歴史という固定的な枠組み（あるいは記憶型の歴史認識）を相対化し、より柔軟で多角的な歴史への眼差し（思考型の歴史認識）を持てるようにする。
- 3) 過去を学ぶことが現在を生きるうえでどのような意味を持つのか、主体的に考えられるようにする。

#### 25文学部04260076

鈴木晃仁「応用倫理特殊講義VI」（医療者たちの歴史 The history of medical practitioners） 2単位 A1A2 金4

医学史は疾病・患者・医療者から成立する。この講義では、古代から現代までの医療者たちを取り上げる。

The history of medicine has three agents: disease, patient and medical practitioners. This lecture picks up medical practitioners from the ancient period to the twenty-first century.

#### 26文学部04260077

鷹田佳典「応用倫理特殊講義VII」（応用倫理特殊講義VII）2単位 S1+S2 火3

急性疾患が疾病構造の中心を占めていた時代、「健康」であるか、「病氣」であるかは、ある程度明確に区分されていました。しかし、慢性疾患の増加に伴って、両者が重なり合うような「寛解者の社会 (remission society)」（フランク）をわれわれは生きています。医療のあり方も大きく変化しつつあります。病氣になった身体を治療する「病院医療」から、全住民のライフスタイルを監視する「リスクの医療」へとシフトしています。また、死にゆく過程や死、看取りをめぐる状況も以前とは大きく異なっています。本講義では、医療社会学や死と死別の社会学において彫琢されてきた概念を手掛かりに、健康、病い、死、悲嘆をめぐる現代的状況を読み解くと同時に、そこで求め

られる新たな「倫理」についても考えていきたいと思えます。

### 27文学部 04260079

冨澤かな「応用倫理特殊講義IX」（東洋と近代と共有の論理） 2単位 A1+A2 月5

本講義では近現代のインドを起点に、異なる者が共存する中で、どのように共通の場や語彙をつくりうるのかを考えます。現在14億を越える人口を抱えるインドは、「多様性の中の統一」を語り「世界最大の民主主義国」としてやってきましたが、そこには非常に多くの困難が伴っています。それはつまり、インドは多様性の共存の試みをどこよりも多く重ねてきた先達ということ。さまざまな分断の中で、何かを共有していくことの困難と可能性を考えたいと思えます。

### 28医学部 02246

池田真理「家族と健康」（家族と健康）2単位 A1 月1+2

時代の変化とともに家族形態は変化し、さまざまな状況・諸問題に応じた援助が家族に必要となっている。さまざまな健康レベルの家族のヘルスニーズや、家族の健康問題によって発生する家族問題を理解し、本来の家族機能を高め、意思を尊重し、健康増進に向かうよう、家族看護の展開を理解する。

#### **【到達目標】**

- 1.さまざまな家族の健康問題によって発生する家族の課題と家族看護の必要性、意義について理解できる。
- 2.家族看護の基盤となる家族を捉える諸理論（家族発達理論・家族システム理論・家族ストレス対処理論、他）と、その実践への活用方法を理解できる。
- 3.家族看護の諸理論を説明できる。家族を単位としたアセスメントの方法を理解できる。
- 4.家族看護の展開方法としての家族看護過程を理解できる。
- 5.家族の発達段階に応じた健康問題を説明し、家族に対する援助の方向性を説明できる。

### 29医学部02218

中澤栄輔「生命・医療倫理 I」（生命・医療倫理 I）2単位 A2 金1+2

本講義では、保健・医療の分野においてしばしば生じる意思決定が困難な問題を、主に倫理的側面から検討する。授業では、医療倫理学の基礎理論を講義するだけでなく、具体的なケースを用いたディスカッションも行うため、受講者の積極的な参加が望まれる。

本講義は、将来に保健医療や医療政策に携わる人にとって有益であるのはもちろんだが、それ以外の人にとっても、いろいろな立場の人との議論を通じて、自分の倫理的思考を見つめ直すよい機会となる。

### 30農学部060500031

鴨下顕彦「技術倫理」（食・生活・生産を中心に、現代の科学技術と社会との接点において、

価値判断を伴う意思決定が求められる場面を取り上げる) 1単位 S2 月5

## 目標

相互に矛盾しうる多様な要素や利害の相互作用について、技術の適用対象や特性に即しながら多角的に検討することを通じて、受講生が専門分野の枠を超えて議論し、理解を深めることを目指す。本授業の到達目標は、技術の利用について、生命の尊厳と自然への洞察に根差した視点から深く考え、かつ個々の技術や具体的状況に即して主体的に思考できるようになることである。

## 概要

本授業は、主に学部3・4年生を対象とし、農学部生を中心に、工学部、経済学部、医学部、文学部など、多様な専門分野の学生も共に学べることを想定している。私たち人間は、技術を通じて世界と向き合い、資源を利用し、環境を管理してきた。農林水畜産業のように生産現場に近い分野から、食品や生活資材の加工業といった消費に近い分野に至るまで、技術は生業としての営みから高度に産業化された形態まで、きわめて多様な姿をとっている。また、伝統的に培われてきた技術から、現代科学の成果を結集して開発される先端技術に至るまで、その広がり大きい。このような多面性の中で、個々の技術がもつ特性や社会的意味を捉え直すことは重要である。先端技術の発展は、農林水畜産業、生物資源、環境をめぐる諸課題の解決に大きな可能性をもたらしてきた。一方で、それらの技術は新たな倫理的・社会的問題を孕むことも少なくない。こうした課題を考えるためには、専門的知識に加えて、技術が「何のために」「誰のために」用いられるのかという根本的な問いが不可欠である。この問いは、自然観、生命観、さらには食や生活に対する価値観とも深く結びついている。本授業では、技術の利用に責任を負う主体としての人間が、どのように技術を選択し、活用すべきかを考えるための視点、知識、具体的事例を紹介する。

### 31農学部060500021

芳賀猛「生命倫理」(生命倫理) 1単位 S1 月5

我々は皆、他の「命」をいただいて、生かされている存在である。人間社会の利益、科学技術の進歩、ヒトとヒト以外の生き物との間での命の価値の違いなど様々な理由で、ヒトや動物の命の扱い方が異なっている。本講義では、人の生命や死に関わる倫理上の問題だけでなく、生物資源問題、動物倫理、ヒトと動物の絆、食品安全、家畜防疫、感染症など、「食」に関わるさまざまな「生命」との関わり方を取り上げる。それらを様々な角度から実例をもとに聴講し、農における生命倫理として、多層な生命をどう秩序立てて理解し、どのように人類の幸福を追究すればよいかを、自身の専門分野とは異なる立場からの情報も取り入れて、これまでとは違う発想、価値観、文化、思想などについて考える機会とする。

### 32教養学部08D1002

伊吹友秀「応用倫理学概論(科学技術論コース)」 2単位 A1+A2 未定

私たちは日常の中で「～すべき」「～すべきではない」、あるいは、「～あるべき」「～あるべきではない」といった判断を積み重ねています。たとえば、「大学のレポートの作成に

生成系AIを使うべきではない」とか、「若いうちの苦労は積極的にするべきだ」といった文言は日々耳にすることかと思えます。私たちの価値に根差すこれらの判断に関して研究する学問分野を倫理学といい、その中でも、私たちの現実に起こる出来事などについての倫理的な判断を検討する分野のことを”応用倫理学”と呼びます。

本講義では、この応用倫理学について中心的に取り扱いますが、応用倫理学はその検討する現実問題の分野に応じて、さらに下位のカテゴリーを持ちます。たとえば、「積極的安楽死は認められるべきか？」や「日本国内で代理出産は認められるべきか？」といった人(や動物)の生命に関する倫理的な問題を扱う生命倫理、「たとえ人間にとって有害な生物であったとしても絶滅は避けられるべきか？」のような問題を扱う環境倫理、他にもドーピングなどスポーツの場面での倫理的な判断を検討するスポーツ倫理など、人の営みや実践の種類の数だけ”〇〇倫理学”は存在します。

また、応用倫理学において示される判断にはその基準が存在し、その判断の基準自体の妥当性や理論化について検討する倫理学の分野が規範倫理学です。本講義では、応用倫理学への適用を念頭に基本的な規範倫理学の理論についても紹介します。加えて、これらの倫理的な営み自体の正体について考えるメタ倫理学についても一部触れていきたいと思えます。

このように本講義では、多様な応用倫理学の問題について講義とディスカッション通じて学生一人一人が向き合うことを目的とし、そのための補助的な知識として規範倫理学やメタ倫理学についても説明していきます。最終的には、倫理学全体の営みを理解しながら、多様な応用倫理学の問題に気づき、応答できるようになることを目指します。

### 33教養学部08F1003

伊吹友秀「応用倫理学概論（グローバル・エシックス）」 2単位 A1+A2 未定

私たちは日常の中で「～するべき」「～するべきではない」、あるいは、「～あるべき」「～あるべきではない」といった判断を積み重ねています。たとえば、「大学のレポートの作成に生成系AIを使うべきではない」とか、「若いうちの苦労は積極的にするべきだ」といった文言は日々耳にすることかと思えます。私たちの価値に根差すこれらの判断に関して研究する学問分野を倫理学といい、その中でも、私たちの現実に起こる出来事などについての倫理的な判断を検討する分野のことを”応用倫理学”と呼びます。

本講義では、この応用倫理学について中心的に取り扱いますが、応用倫理学はその検討する現実問題の分野に応じて、さらに下位のカテゴリーを持ちます。たとえば、「積極的安楽死は認められるべきか？」や「日本国内で代理出産は認められるべきか？」といった人(や動物)の生命に関する倫理的な問題を扱う生命倫理、「たとえ人間にとって有害な生物であったとしても絶滅は避けられるべきか？」のような問題を扱う環境倫理、他にもドーピングなどスポーツの場面での倫理的な判断を検討するスポーツ倫理など、人の営みや実践の種類の数だけ”〇〇倫理学”は存在します。

また、応用倫理学において示される判断にはその基準が存在し、その判断の基準自体の妥当性や理論化について検討する倫理学の分野が規範倫理学です。本講義では、応用倫理学への適用を念頭に基本的な規範倫理学の理論についても紹介します。加えて、これらの倫理的な営み自体の正体について考えるメタ倫理学についても一部触れていきたいと思えます。

このように本講義では、多様な応用倫理学の問題について講義とディスカッション通じて学生

一人一人が向き合うことを目的とし、そのための補助的な知識として規範倫理学やメタ倫理学についても説明していきます。最終的には、倫理学全体の営みを理解しながら、多様な応用倫理学の問題に気づき、応答できるようになることを目指します。

#### 34法学部 0126986

米村滋人「特別講義 医事法」（医事法） 2単位 A1+A2 木2

医事法は、医療に関するさまざまな法律問題に加え、ヒト胚、死体、ヒト由来組織・臓器の法的地位、医薬品・医療機器の規制、さらには種々の医学・生命科学研究の法規制の問題など、きわめて広い範囲にわたる問題を扱う法領域である。これらの問題の検討には、民刑事法・行政法などの一般的知識を前提に、医療実務、法律実務、さらに医療政策や生命倫理なども考慮した複合的な問題解決能力が必要となる。本講義では、一般的な医事法の解釈問題につき解説を行うのみならず、医療・医学研究の実態や近時の動向を盛り込みつつ、現実に発生している法的問題を扱うことで、民刑事法・行政法を応用しつつ医療を中心とする実務的問題の解決を導く能力を涵養するとともに、医療のあり方や法の役割についての理解を深めることを目的とする。

#### 35法学部 0126971S-11

米村滋人「医事法演習」（医事法発展演習）2単位 A1+A2 金4

医事法は、医療や医学研究に関する法律問題を扱う法分野である。従来から存在した医療過誤・薬害等の類型に加え、近時では特殊医療や医学研究に対しても法規制が強化されており、この分野に関する法律問題は急速に拡大しつつある。ところが、これらの問題は法学部・法科大学院の講義で扱われないことが多く、また医学や医療政策等の総合的な知識が必要であるため、独学での学習は相当に困難である。本科目は、医療・医学研究の分野で発生している法律問題に関して、医学・臨床医療の専門家をゲスト講師に招くなどして背景的知識を補いつつ、問題の多角的な検討を行い、当該分野の法制度のあり方などにつき発展的な考察を行うことを通じて、医学・法学の両者にまたがる専門的問題解決の能力を培うことを目的とする。

#### 36教養学部 08C1302

齋藤幸平「現代思想」（「正統性の危機」を考える）2単位 S1+S2 木2

約五十年前に、ハーバマスは『後期資本主義における正統化の問題』を出版した。今、再び、資本主義システムは深刻な正統性の危機に陥っている。しかし、その構図は必ずしも同じではない。本授業が参照するのは、ドイツで注目を集める気鋭の社会学者フィリップ・シュタープの新刊『Systemkrise: Legitimationsprobleme im gruenen Kapitalismus: Warum die gruenene Transformation zu scheitern droht』である。この2冊を比較検討することで、現代社会が直面しているシステムの危機と気候変動の関係について考察を深めていく。

以上